

# 公益社団法人 日本天文学会 臨時代議員総会 議事録

日時： 2020年12月2日（水） 12時00分～13時20分

場所： オンライン開催

出席代議員：鈴木、深川、谷本、榎戸、野村、松下、土居、井岡、北山、縣、横山、百瀬、大内、梅村、河野、鶴、長田、須藤、本間、相川、大須賀、太田、浅井、大向、秋山、大朝、津村、吉田、米徳、藤沢、江草、生田、赤堀、相川、細川、今井、山崎（以上37名）

馬場副会長、伊王野庶務理事、鹿野会計理事、佐藤事務長、黒岩事務長補佐、田口谷事務長補佐が出席した。梅村会長、鈴木庶務理事は代議員を兼任している。

佐藤事務長より、代議員一名の交代があったことが報告された。次の代議員総会において文書で正式に報告する。

## 1. 代議員の退会について

梅村会長より、学術会議会員非任命問題に対する声明案作成の過程で、代議員が退会したことが報告された。さらに、できるだけ多様な意見を声明案に取り入れ議論を進めることが重要であると考え、ワーキンググループ(WG)を設置し進めてきたが、この進め方が退会につながったのであれば会長の責任を痛感しているとの発言があった。

これに対して、代議員より以下の発言があった。

- ・ 退会は大変残念なことであるが、今回の会長の進め方は論理的に正しかったのではないかと。
- ・ 他の方が会長でも同様の状況になったのでは。つまり、構造的な問題ではないか。ただし、今後退会が連鎖的に起きないことを願う。
- ・ 今回の件のみが理由ではなく、安全保障に関する検討時からのものが累積したものではないかと考える。天文学会は、天文学に興味を持つ人の交流の場になることが重要だと思う。政治心情は様々な考え方があるため、統一的な答えを出すのは難しく、会員全体の声明を出す場合に慎重に進めるべきである。

## 2. 声明の今後の進め方について

会長より、今回退会した代議員は選挙で最多得票だったが、声明案に対して強い意見を持っており、会員へのインパクトと多様な意見を取り入れるという観点から、一度立ち止まるべきではないかとの提案があった。具体的には、短い期間で声明を出すのではなく、3月の春季年会時の学術会議に関する特別セッションと全体集会で会員から声明の内容と発出に関する意見を聞いた上で、その後どうするかを決めるということである。

これに対してWGメンバーの代議員から次の発言があった。

- ・ WGで検討した声明案は、短い時間で発出すること前提として作成しており、3月まで待つと状況が変わってくると思われる。
- ・ 会員はWGからの声明案が比較的早く出てくるものと思っているので、3月まで何もしないと、WGが全く仕事をしていないと思われるはずである。

- ・ 本日の代議員総会で声明案の検討をし、採決を取った上で立ち止まるのであれば理解できるが、その前に止まってしまうのは、手続き論として問題ではないか。
- ・ WG が提示したスケジュールを会長の判断で遅らせる場合は、会員にも会長から状況を説明して欲しい。
- ・ たとえ3月の特別セッションで議論するとしても、声明案を迅速に会員に公開することが重要ではないか。
- ・ 今後のスケジュールと進め方については、本日採決を取るべきではなかったか。

会長およびWGメンバー代議員からの発言に対して、WG以外の代議員からは、3月まで待つことに賛同する意見と、迅速性の点からスケジュールの後ろ倒しに否定的な意見の両方が出された。上記を踏まえて、以下が確認された。

- ・ 声明案は12月中に会員に提示し、長めの期間を取って会員からの意見を収集すること。
- ・ 声明案と今後の方針を1月の定例の代議員総会で検討すること。
- ・ その他の今後の具体的なスケジュールを会長より提示し、代議員で検討すること。
- ・ WG が提示したスケジュールより会長の判断で遅らせる場合は、元のスケジュールと修正されたスケジュールを、会員に説明すること。
- ・ 春季年会時の特別セッションと全体集会で、声明に関する会員からとの意見交換を行う時間も設けること。

また前期執行部の代議員から、安全保障に関する声明の時の同様に時間を掛けて議論し会員アンケートを取った上でないと、声明を出すのは難しいのではないかとの意見があった。対して、前回の安全保障と今回の学術会議会員非任命問題は、質的に違うものではないかとの反論もあった。

2020年12月2日

議長・署名人：梅村雅之 印